

# 育てよう 鏡野のよい子シリーズ



## 「伝統行事から学ぶこと」

先日、生活科の時間に秋や月について子どもたちと話をしていました。その時、「先生、きのお月見したよ。」と、教えてくれた児童がいました。自分が家族とともに経験した何気ない一言だったのですが、何か心温まり、ほっこりする話でした。ススキを飾ったり、お月見だんごを食べたりしたそうです。家族で楽しんでいる姿が想像できました。

September.0と言われる現代ですが、このように昔から伝わる行事を子どもたちと共有されていることに感動しました。そして、経験したからこそ、自信をもって、話すことができたのでしょう。

実際に自分の子育て時代を思い返した時、果たしてきちんと行事の知識を教えられたのだろうか、そしてこの児童のように目を輝かせながらクラスで発表できていたのだろうか疑問でした。確かにお月見だんごは食べました、おだんごを食べる謂われも話してなかったかも知れません。だんごを食べたという記憶は残るかも知れませんが、どうして食べるかは分かっていなかったと思います。恐らく発表できるほどの中味も自信もなかったでしょう。母として古い記憶をもつ中、改めてお月見について調べてみました。

お月見とは、満月の夜を見て楽しむ日本の風物詩です。秋は、どんどん空が高くなり、空気が澄んでくると月がよりきれいな見えることから中秋の名月と言われています。

この機に、中秋の名月についても話が広



がっていくと、

「中秋っていつのこと。」

「どうしてススキを飾るの。」

「何を飾ってもいいの。」

「何でおだんごを食べるの。」

と、怒濤の質問がとんできました。一つ一つを分かりやすく伝えました。ススキは、実りを象徴する稲穂に似ているので、翌年の豊作を願う意味が込められていること、また背の高いススキを飾ることで神様が降り立つと言われていること。月見だんごは月に見立てた山のように盛り、収穫した米を使って実りの秋に感謝するという意味があることを伝えました。

子どもたちは、友だちがした経験に興味があり、知らないことを知る喜びと同時に、自分もしてみたいという気持ちが出ているようでした。

行事の意味を知ること、より身近に感じることができ、実現したくなるのが低学年の好奇心といったところでしょうか。子どもたちの生活意欲を高めるためにも、まわりの大人は、正しい知識を教え、一緒に経験することが大切なことだと痛感しました。

そうすることで、得た知識を貯金していくことになり、微力ながら生きる力の一つにつながると思っています。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

南小学校 高橋 恵子

# のびのびひろば ～なかよしタイム～

かがみの中央こども園では朝の戸外遊びを『なかよしタイム』と名付け異年齢の友だちと一緒に遊びを楽しむ時間としています。好きな遊びのコーナーで友だちと一緒に心はずませて遊んでいます★



なかよしタイムのシンボル旗



落ち葉シャワー



落ち葉プールにもぐれたよ☆

落ち葉プール



アイドルステージ



どんぐりカフェ



美味しいケーキ作るぞ～!

集団遊び・わらべうた



まるさんかくしかく～



やまびこコーナー



男山にむかってヤッホー!!



地上絵コーナー



できた☆

(かがみの中央こども園)